

(1) 都内の結核患者発生状況と結核病床等の現状

**都内の結核患者発生状況**

2022年の新登録結核患者数は、2021年と比べて減少した。

2020年 患者数 1,589人 塗抹陽性者数 597人

2021年 患者数 1,429人 塗抹陽性者数 545人

2022年 患者数 1,188人 塗抹陽性者数 437人（月報の累積数）

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、2020年2月以降、以下の状況が生じている。

**稼働病床数の減少**

2022年3月現在の結核病床数は378床。このうち、4病院の結核病床（109床）はコロナ病床へ転用され稼働病床は269床。その内、感染症法第37条第1項に基づく入院が可能な病床は、197床となっている。

近隣県においても、結核病床が不足している状況は同様である。なお、低まん延化していく中、結核病床の増床は見込めない。

**合併症や妊婦対応**

精神疾患を有する結核患者、人工透析や結核以外の手術やカテーテル治療等の専門的医療が必要な結核患者等の入院調整が困難な状況が継続している。

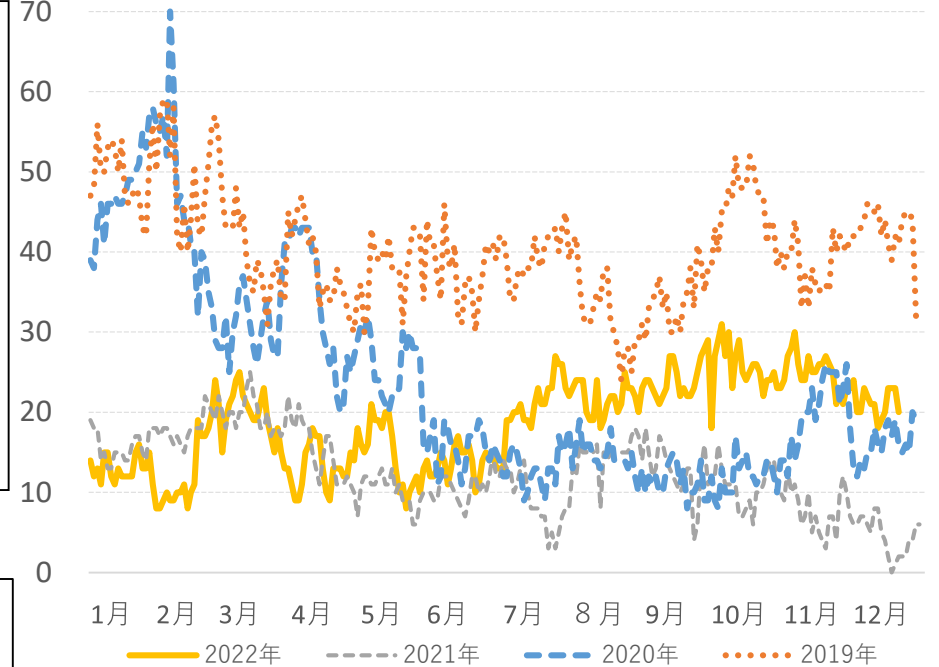
(2) 令和4年度の取り組み

- ・近隣3県（埼玉、千葉、神奈川）の結核担当者とweb会議を実施し、新型コロナウイルス流行後における各県の結核患者を取り巻く状況について情報交換を行った。
- ・都内の結核病床を持つ全13医療機関と、一部の結核患者収容モデル事業実施病床（以下モデル事業）を持つ医療機関へ直接訪問もしくはweb会議を実施し、結核病棟の使用状態を確認した。
- ・結核病床もしくはモデル事業病床を有する全医療機関に対し、多言語対応、合併症等の対応状況とそれぞれの診療上の特徴を把握し、調査結果を取りまとめた入院・転院調整の効率化を図った。また、結核病床を有する医療機関同士でweb上で空床情報を共有化し相互に閲覧可能にした。

(3) 結核病床の確保に向けた課題

- ・塗抹陰性後の日常生活動作（ADL）の低い高齢者等は転院・退院がしにくく、入院が長期化する。
- ・合併症等、専門的医療が必要な結核患者の対応可能な医療機関に限られる。
- ・結核病床を新型コロナウイルス病床に転用している医療機関では、新型コロナウイルスが流行していない時期においても、次の波に備え結核病棟を再開できない状況が続いている。
- ・結核患者自体の減少は継続しているため、他疾患との病床の兼ね合いなどがあり、結核病床の縮小・廃止を検討している医療機関が複数存在する。

【図1】 東京都内結核病棟の感染症法37条第1項に基づく入院が可能な空床数



【図2】 病床数・東京都内のり患率(10万人対)の推移

